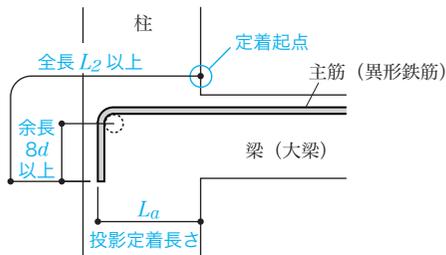


② 定着の長さが足りない場合

梁の主筋を柱内に 90 度曲げて定着する場合

以下の基準を満たさなければならない。直線定着の長さ

- ・定着起点から鉄筋先端までの全長の長さ  $L_2$  (前ページ表) 以上。
- ・余長を  $8d$  以上とし、投影定着長さ  $L_a$  (下表) とする。



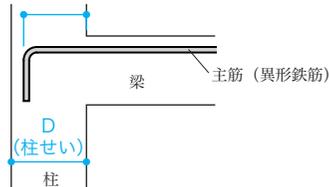
◎ 大梁（基礎梁、片持梁を含む）の主筋の投影定着長さ ( $L_a$ )

コンクリートの設計基準強度 [N/mm <sup>2</sup> ]	SD295A SD295B	SD345	SD390	SD490
18	20d	20d	—	—
21	15d	20d	20d	—
24~27	15d	20d	20d	25d
30~36	15d	15d	20d	25d
39~45	15d	15d	15d	20d
48~60	15d	15d </td <td>15d</td> <td>20d</td>	15d	20d

※丸鋼には適用しない。  
※小梁、スラブ(片持ち形式を除く)の場合は数値が異なる。

投影定着長さ  $L_a$  は、原則として柱せいの3/4倍以上とする。

投影定着長さ ( $L_a$ ) : 3/4D 以上



柱の頂部の定着



定着の長さは前ページ表に応じた長さの基準以上。

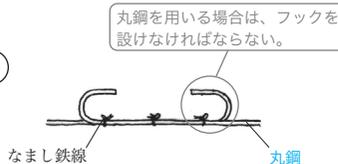
3

鉄筋コンクリート構造 (配筋計画)

3. 鉄筋の重ね継手

① 継手の種類

重ね継手



a. なまし鉄線で緊結する場合

なまし鉄線

異形鉄筋

フレア継手



b. 溶接継手の場合

突合せ継手

◎溶接継手

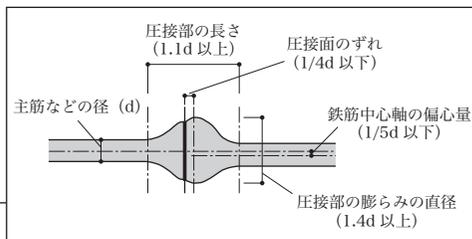


圧接部

◎ガス圧接継手



圧接継手の圧接部には、一定の強度が発揮できるように右図の規定が定められている。また、すべての継手に検査（超音波検査）が行われる。



※鉄筋差または呼び名の差が7mmを超える場合には、原則としてガス圧接にはしてはならない。

※同一種類の鉄筋の場合、圧接の性能に支障がないことを確認すれば、銘柄の異なる（製作会社が違うなど）鉄筋をガス圧接継手とすることができる。

◎機械継手(ねじ継手)



※機械継手は、継手の箇所に応じたものを使用する。

継手部分の強度・剛性・靱性などによる性能の分類がされているため。